

合併の経緯 - 静村 -

◇明治の合併前後の静村

昭和30年に大宮町に分村合併した旧静村は、村名のとおり、常陸国二の宮の静神社が所在し、古代は「倭文（静織）郷」と称された地域であったことに由来しており、現在的那珂市静に大字名を残していません。明治の合併前の静村域は、下村田村、高野村（天保年間〈1830-44〉に上村田村に合村）、上村田村、石沢村、下大賀村、静村（志津村から寛文8年〈1668〉に改名）、菩提村（天保年間に静村に合村）の7か村に分かれていました。

これらの村々は明治5年（1872）に始まる大区小区制では、第10大区2小区に静村、同3小区に下村田村と下大賀村、同4小区に上村田村と石沢村が組み入れられました。また同8年の改正後は第4大区8小区に下村田、上村田、石沢の各村が入りました（『大宮町史』）。

その後、明治22年（1889）に施行された町村制により、小規模の町村を合併して適正規模の基礎自治体を作ることが進められました。これにより下村田村、上村田村、石沢村、下大賀村、静村が合併し、新しい静村が発足しました。初代村長に小橋伊之次郎が就任し、役場は弘願寺の東側、下大賀1113番地に置かれました。その後、庁舎は昭和40年9月に個人に払い下げられ、現在も改修しながら利用されています。

大正8年2月1日には水戸鉄道（のちの水郡線）の静駅が役場のすぐ近くに開業し、旅客営業を開始しました。静神社参詣の足として多くの利用客を迎えることとなりました。



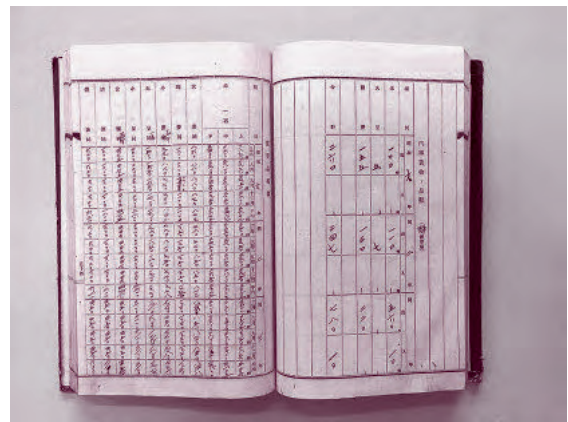
旧静村役場庁舎（那珂市下大賀）

◇昭和初期の村の記録『静村事蹟簿』

静村に関する史料はあまり多く残されていませんが、明治40年代以降作成されるようになる村の概要を記した台帳「事蹟簿」が残されています。昭和元年から同3年（原本当館蔵）、昭和4年から同6年（複製を公開、以下同）、昭和15年、昭和16年から同

18年の4冊で、当時の人口や村の予算、村民の生業などが書かれています。

これによれば、昭和元年の静村の現住人口は2922人、同18年3203人となっています。一方で本籍人口は昭和元年が4290人、18年5100人で、現住人口の1.5倍前後の数となっています。これは戦争への出征や軍需産業への徴用に加えて、都市部への就業や就学による人口流出が原因と考えられます。一般的に事蹟簿の記述は、産業統計部分が空欄のまま記述されないことが多いのですが、静村の事蹟簿は該当部には洩れなく記載があり、行政資料として貴重です。



静村事蹟簿（昭和元年～3年）

◇静村の分村

昭和28年9月に町村合併促進法が施行され、静村には昭和29年12月、合併調査会が発足しました。調査会は上野、大場、静の3か村合併案を提示しましたが合意には至りませんでした。一方、翌年1月には瓜連町議会によって瓜連・静・上野の3か村合併案が提示されます。これに対し石沢・上村田・下村田3地区は瓜連町への合併に反対し、静と下大賀の両地区では大宮町との合併に反対を表明しました。更にこのあと石沢では区民大会で大宮町への合併を決定するなど、静村各地区での意思統一は進みませんでした。これらの経過をふまえて、30年1月17日の合併調査会で分村合併が決定し、北部の下村田・上村田・石沢は大宮町に、南部の静・下大賀は瓜連町に合併することが決まりました。

仲村二九二さん、先崎千尋さんに聞き取り調査にご協力いただきました。

【参考文献】

「静村事蹟簿」（大宮町役場文書216）、「静村事蹟簿」（複製o381-2～4）、塙泉嶺『那珂郡郷土史』宗教新聞社 大正12年、茨城県総務部地方課編『茨城県市町村合併史』昭和33年、『大宮町史』昭和33年、『大宮町史』昭和52年、『瓜連町史』昭和61年